

柑芦会 本部 ニュース

第 21 号 2021. 4. 1.



wakayama
univ.

国立大学法人
和歌山大学

—そして ここから—



1. 寄稿①



新学部長就任ご挨拶

経済学部学部長 芦田昌也

平素より経済学部ならびに和歌山大学に対するご支援ご協力に感謝申し上げます。

2021年4月より、学部長に就任することとなりました芦田昌也でございます。まもなく設立100年を迎える経済学部において、経済学を専門分野としない私に、「経済学部の」学部長という大役が務まるかどうか、その不安に押しつぶされそうな日々を過ごしております。ときには方向を見誤り、道に迷うこともあろうと思いますが、教職員の助けを得ながら、少しずつ前に進めるように学部を運営してまいりたいと考えております。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、経済学部の授業の多くが遠隔授業になりました。新生の多くは、わからないことを気軽に相談できる友人を作る機会もないまま授業に臨みました。在学生の多くは、これまでに経験したことがないであろう分量の課題に取り組みました。これにより、自分で学ぶ力や自分を律することの大切さを感じた学生がいることでしょう。教員は、教材や授業の方法を工夫して、対面授業以上の効果を得る方法を模索しました。その結果、遠隔授業への対応力を手に入れました。職員は、学生や教員のサポートにとどまらず、学生のご家族からの問い合わせにも、これまで同様、誠実に対応しました。そして、学生や教員のサポートを通して、遠隔授業に必要な技能に対する理解を深めました。これらの点で遠隔授業は、緊急措置的な展開でしたが、学生・教職員を一体とした経済学部の総合力の向上に寄与したものと考えています。

一方で、遠隔授業については、その負の側面を捉えた報道等もなされました。経済学部においても、誰にも相談できずに躓いた新生や、急激な変化に対応することが難しく、学習意欲を失った在学生がいることも事実です。結果として、目指した品質におよばなかった授業や、不十分だった支援もあったのではないのでしょうか。これらは、遠隔授業に限ったものではありません。将来に向けて、これらの正・負の両方の経験

を踏まえ、少しでも成長できるように努力したいと存じます。

最後になりましたが、今後とも、経済学部ならびに和歌山大学へのかわらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. 寄稿一②



学部長から柑芦会への 最後のご挨拶

経済学部教授 マグレビ・ナビル

2021年3月21日

学部長の2年間の任期は終わりに近づいています。皆様からの経済学部への多大な精神的支援に感謝します。この短いご挨拶の中で、過去2年間の活動、成果と残された課題、不足の完全なバランスシートを提供することは困難です。しかし、皆様と、いくつかの個人的な考えを共有させてください。私にとって、学部長の仕事は、深刻な課題、予想された障害、予期せぬ出来事を伴う、有益な学習体験でした。学部長の仕事の重要な部分は、戦略的な優先順位を設定し、困難の規模を認識し、制御できない要因と対峙することができるように教員を動機付けることです。したがって最終的な目的は、学部の将来の発展と、学部が大学におけるその中心的な役割になることに貢献することです。

初年度は、経済学研究科の修士課程の改革に尽力しました。この仕事は学部課程の以前の改革の延長になります。大学院の改革が長年停滞しており、その結果、教員は自らを改革することを望まないか、できないという強い批判が生じておりました。これに対する最初の早急に対応しなければならない課題でした。文部科学省が改革計画を正式に受け入れたことは、社会の変化し進化するニーズに教育研究プログラムを適応させたいという教員の願望の強さと能力の高さを示しています。しかし、改革計画の設計と正式な承認だけでは、必ずしもその改革が成功したことを意味するわけではありません。改革と改善の勢いは、新しいアイデアを実現するためのより大きな認識とより強いコミットメントがなければ、簡単に失われる可能性があります。経済学博士課程の時宜を得た開始は、経済学部と経済学研究科の両方の使命と機能を強化するでしょう。また、オープンエデュケーション、および教育・研究のより強力な連携に関する、大学に対するニーズの高まりにも貢献します。

最終年度は、新型コロナウイルス感染症の発生によって引き起こされた教育および研究活動の重大な停滞と向き合わなければなりませんでした。移動制限により、教育と学習の環境が影響を受けました。しかし、オンライン教育への迅速な採用が可能であったことは、教授と学生の、突然の制御不能な要因に迅速に適應する能力を反映しています。また、卒業生の優秀さを売り込むための、企業訪問をこれまで通りに行うという当初の計画を立てることも困難でした。教育の卓越性へのコミットメントを説明し、重要な利害関係者との

関係を強化する機会を失うことは、確かに残念なことです。しかし、柑芦会は学部の最愛のそして最も重要な利害関係者であり続けます。経済学部にとって、卒業生と学部とを結びつける独特な絆ほど、より強く、より永続的な関係はあり得ません。柑芦会は、過去の世代の卒業生と現在の学生とをつなぐ唯一の鎖です。

医療危機は、いかなる経済にも、そしていかなる経済学部にも深刻な課題をもたらします。ますます困難な状況を考えて、教育は依然として人間開発の中心にあり、学部・教育機関だけでなく社会全体で真剣に受け止められるべきです。確かに、社会からの変化への圧力の高まりの下で経済学部を管理することは決して容易な仕事ではありませんでした。毎年、一千人以上の学生の可能性をさらに高め、広げ、次世代の日本の経済専門家やビジネスリーダーの育成に努めています。資源の減少、変化への期待される抵抗、制御不能な要因、予測不可能な状況にもかかわらず、敬愛なる柑芦会とともに、それらの目的を私たちが追求し続けることは高貴な信念に基づいています。親愛なる尊敬している柑芦会の会員からの強力で揺るぎない暖かい支援に、感謝の気持ちでいっぱいです。過去 1 世紀にわたる私たちの共同の成果を非常に誇りに思っています。

計り知れない揺るぎないサポートに改めて感謝します。

経済学部長 Nabil El Maghrebi

1. 寄稿③



名古屋の中の和歌山

柑芦会副会長 東海支部長

垣見祐二(大 25 期)

大学を卒業し和歌山を離れてから 40 年以上たったが、その内 30 年間余りは仕事の関係で名古屋に住むことになった。この間、和歌山を訪ねる機会はなかったが、2019 年の春に大学の経営協議会委員に就いたことから、和歌山に行く用事ができた。2 年前からは、大学院でエネルギー市場演習の講義をすることになり、最近では、しばしば和歌山を訪れている。

名古屋と和歌山との共通点を探すと、ひとつは徳川の御三家だったこと。もうひとつあげるとすると、これは城マニアとしての私自身の趣味による偏った選択だが、立派なお城の存在があげられる。和歌山城も名古屋城も、戦前、数少ない国宝天守閣だったが、大戦末期の空襲で焼け落ちてしまったことも共通している。

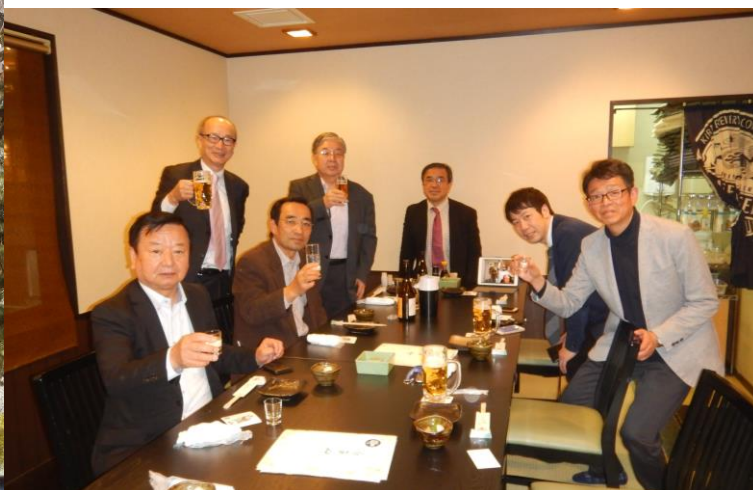
島精機製作所の島会長は和歌山のご出身で、現在、和歌山大学の経営協議会委員をされているが、日経新聞掲載「私の履歴書」今年 3 月 2 日付けの記事で、和歌山大空襲の様子を克明に描いている。大変な空襲だったようで、その時、国宝天守閣をはじめ旧城下の寺院や武家屋敷など、多くの歴史的建造物が焼失してしまった。もしそれらが残っていれば、和歌山市は日本有数の歴史ある町として、金沢のように、多くの観光客で賑わっていたらと思うと残念だ。

現在、名古屋では、天守閣の木造完全復元が計画されており、私自身、熱烈支持者のひとりである。コンクリート製の天守を取り壊して、元通りの姿、材質、内装で復元するという計画である。そのコンクリート製天守の隣には、すでに、完全復元された本丸御殿が建っている。この御殿も同じ空襲で焼失し、長い間、礎石だけが残っていたが、9年間の工事を経て、2018年、美しく完全復元されている。

その本丸御殿の中に、対面所という重要な建築物がある。藩主と家臣との私的な対面や宴会のための特別の場所であるが、対面所の「次の間」と呼ばれる18畳の部屋には、当時、和歌山から嫁いだ春姫のために描かれた、美しいふすま絵に囲まれた空間がある。ふすま絵には、紀三井寺、塩釜神社、玉津島神社、片男波、和歌山天満宮、城下の賑わいなど、和歌山城下の名所と多くの人々が、やさしい色合いで描かれ、江戸初期の和歌山の姿を垣間見ることができる。名古屋に来る機会があったら、本丸御殿を是非訪ねて、名古屋の中の和歌山を堪能してみたいはいかがだろうか。



名古屋城天守閣



2021.3.17 東海支部定期懇親会

2. 本部情報

マグレビ学部長の「任期終了記念講演会」開催さる

日時：3月27日（土）13：00～14：40

方式：オンライン（Zoomによる）

参加者：38名

演題：「経済病のワクチン」

－経済システムの病気と新たな経済学の必要性－

マグレビ学部長は3月末で学部長を退任されますが、今般オンライン（Zoom）で「任期終了記念講演会」

が行われました。

北村柑芦会会長の挨拶の後、マグレビ学部長の紹介がありました。マグレビ学部長は、チュニジア共和国出身で、1991年3月本学大学院経済学研究科修士課程を修了されており、現在柑芦会神戸支部の会員でもあります。講演は上記の表題のもと、大学院教育の充実にご努力された2年間を振り返って、日本の経済システムに巣食う病気と大学院教育の重要性について語られました。

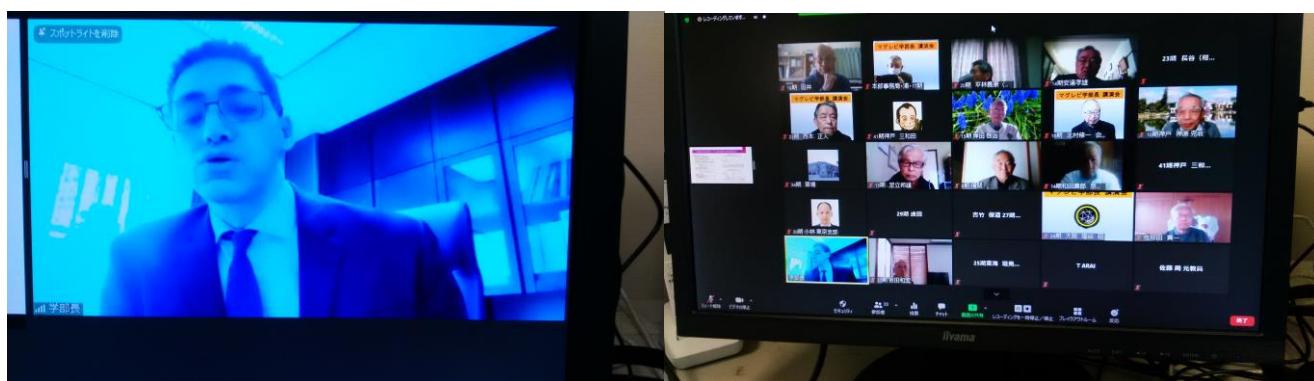
最後に、学部長の属する神戸支部の平林支部長の挨拶の後、全員で拍手で以って感謝の意を表しました。

当日の資料は下記からアクセスできます。

講演会資料：<http://www.kourokai.com/honbu/mg2.pdf>

学部長の経歴；<http://www.kourokai.com/honbu/mg.jpg>

こちらからもアクセスできます <http://www.kourokai.com/>



マグレビ学部長

38名が参加されました。

3. 事務局より

会議ご案内

柑芦会・財団 定例理事会・評議員会の開催

2021年度の柑芦会・財団の理事会・評議員会を、コロナ禍の現況下ですので、オンライン(Zoom)で開催いたします。

記

日時:2021年5月15日(土)13:00~16:00(予定)

実施形式:オンライン(Zoom)で実施いたします。

出席者:柑芦会・・・総会実施時点での理事

財団・・・新・旧の理事・評議員

.....

マグレビ学部長の英文ご挨拶

◆学部長のご挨拶は英文でも頂いていますので下記掲載いたします。

March 21, 2021

Message from the Dean to Kourokai Alumni Association

The dean's two-year term is nearing its end, and I would like to thank you for your immense moral support for the Faculty of Economics. It is difficult to provide in this brief communication a complete balance-sheet of the activities, achievements, remaining issues, and shortcomings of the past two years. But please allow me to share with you some personal thoughts. It has been a good learning experience, with serious challenges, expected obstacles and unanticipated events. A significant part of the dean's job is to set strategic priorities, acknowledge the scale of difficulties, and motivate faculty members to face uncontrollable factors. The ultimate objective is to contribute toward the future development of the faculty and its pivotal role in the university.

The first year was marked by the reform of the Master program at the Graduate School of Economics, which constitutes an extension of the previous reform of undergraduate programs. It was the first serious challenge given the fact that reform of the graduate school had stalled for many years, resulting in strong criticism that the faculty is either unwilling or incapable of reforming itself. The formal acceptance by MEXT of the reform plan is indicative of the desire and ability of the faculty to adapt its educational and research program to the changing and evolving needs of the society. However, the design and formal acceptance of a reform plan does not necessarily mean its final success. The momentum for reform and improvement may be easily lost in the absence of greater awareness and stronger commitment toward the transformation of new ideas into reality. The timely inception of a PhD course in Economics would reinforce the missions and functions of both the Faculty of Economics and the Graduate School of Economics. It would also serve the growing needs of the University in terms of open education, and stronger linkage between education and research.

The final year was shaped by significant disruptions to the educational and research activities caused by the coronavirus disease outbreak. Given the restrictions on mobility, the teaching and learning environment was affected. But the immediate adoption of online education reflects the ability of professors and students to swiftly adapt to sudden and uncontrollable factors. It was also difficult to implement initial plans to make the traditional visits to companies in order to promote interest in the high quality of our graduates. The loss of opportunities to explain our commitment to excellence in education and strengthen our relationship with important stakeholders is indeed unfortunate. But certainly, Kourokai remains our dearest and most important stakeholder. For our faculty of economics, no relationship can be stronger and more enduring than the unique bonds that link it with its association of alumni and alumnae. Kourokai is the only chain that links past generations of graduates with the current population of students.

The healthcare crisis poses serious challenges to any economy and to any faculty of economics. Given the increasingly difficult conditions, education remains at the heart of human development, and it should be taken seriously not only by faculties and educational institutions but by the entire society. Certainly, managing faculty of economics under growing pressures for change from society has never been easy task. Every year, we strive to further improve and develop the potential of more than a thousand students and nurture the next generations of Japanese economic experts and business leaders. It is a noble cause that we will continue to pursue, together with our dear Kourokai, despite the decreasing resources, expected resistance to change, uncontrollable factors, and unpredictable conditions. We are very thankful for the strong and unwavering support from our respected Kourokai members, and very proud of our joint achievements over the past century.

Many thanks again for your immense and unwavering support.

Nabil El Maghrebi

Dean of the Faculty of Economics

訂正とお詫び

3月20日付で発行され皆さまのお手元にも届いていると思われる「柑芦ニュース」(第37号)におきまして下記の記載誤りがありました。たいへん申し訳ございません。下記のとおり訂正いたしますと共に、関係者の皆さまには謹んでお詫び申し上げます。

・該当箇所：3ページ左下「支部一覧表」の「東京支部、幹事長」の欄

<誤>

小林 淳(大30)

<正>

草場 寛(大34)

今後はこのようなことがないように再発防止策を講じるようにいたします。

和歌山大学経済学部同窓会 柑芦会 本部 事務局

〒540-0012 大阪府中央区谷町 4-4-17 ロイヤルタワー大阪谷町 207 号

Tel:06-6941-4986 Fax:06-6947-7925

E-Mail: honbu@kourokai.com URL : <http://www.kourokai.com/honbu/>



こうろかい

検索



フェイスブック

ホームページ「柑芦会」

「柑芦会オフィシャルグループ」
